

科目名	日本語教育の実践Ⅱ(サイレントウェイ)1～2
授業の目標・ねらい	教授法として名前は知られているけれども、実際のレッスンに触れる機会が少ないと思われるサイレントウェイという言語習得法について紹介します。また、この教授法を開発したカレブ・ガターニョの教育観や人間観について触れ「自立した学習者を育てる」ことについて考察します。
授業内容・授業方法	サイレントウェイの根本にある考え方を知り、それが授業でどのように生かされるか、実際に自分自身が言語を学ぶ体験を通して考えて行きます。また、サイレントウェイの教具を使うことで生徒がどのような体験ができるのか、また、それに関連してカレブ・ガターニョ氏の提唱した「The Subordination of Teaching to Learning(学びに従う教え)」について考察します。
予習・復習	予習：自分自身があかちゃんの時から現在に至るまで、どのように母語を習得してきたのかを振り返ってください。記憶にないところは想像してみましょう。授業の中でともに考えます。 復習：プリントを読んで下さい。
使用テキスト	プリントを配付します。
参考書等	カレブ・ガターニョ(土屋澄男訳)『こどもの「学びパワー」を掘り起こせ』(茅ヶ崎出版) 同上『赤ん坊の宇宙』(リーベル出版)
講師	清水明子
所属	拓殖大学 日本語教育研究所
研究分野	
講師紹介	1990 年代の初めに日本語教師養成講座受講中に会ったサイレントウェイに興味を持ち、それ以降サイレントウェイとその開発者カレブ・ガターニョ博士の理論を探求・実践してきました。SW ランゲージセンターでガターニョ博士の著書の読書会を行ったり、日本語訳作成等の活動をしています。